

YANAGAWA SOLARBOAT FESTIVAL GUIDE

2017 柳川ソーラーボート大会ガイド

8/5(土)・8/6(日)

周回レース（予選・リベンジ・決勝）

スラロームコンテスト

ごあいさつ

柳川市は、福岡県南部に位置し、市内には掘割が網の目のように巡り、情緒あふれる独特の水郷景観を形成しています。本市では、水辺環境を生かしたまちづくりを進めており、その一環として太陽エネルギーの有効利用と水辺環境保全を広くアピールできるイベントとしてソーラーボート大会を開催しています。

本年は、36チームの参加をいただき、本大会も今回で22回目を迎えました。回を重ねるごとに参加チームのレベルも向上し、技術立国日本・物づくり大国日本としての技術向上の場としての意義も深く、全国各地の高校、大学、企業など幅広い層から参加をいただいていた開催となります。

大会当日は、参加者のアイデアと努力が詰まった独創的なソーラーボートで、情緒豊かな水郷柳川での様々なドラマが繰り広げられ、思い出に残る大会となるよう期待しております。

また、ソーラーボート大会は、今年で10回目となる「水郷柳川の夏の水まつり」の一競技として開催しておりますが、この水まつりでは、ソーラーボート大会の参加者にも楽しんで頂けるよう様々なイベントも企画しておりますので、ふるってご参加いただければ幸いです。

水郷柳川の水の祭典実行委員会
会長 川口 聡

I 大会概要

1. 大会の趣旨

水辺環境を活かした柳川らしいまちづくりと、太陽エネルギーの有効利用の推進を目指して、太陽電池で動くソーラーボート大会を市内の川下りコースで開催し、ものづくりの楽しさ、さらには、楽しみながら環境・エネルギー問題の啓発を行い、豊かな水と太陽の恵みを再認識する。

2. 大会内容

参加者が船に搭載する70W以上100W以下の太陽電池と大会本部から支給する蓄電池4個（搭載は最大2個まで）および大会本部が貸与する太陽光発電設備（周回レース・決勝進出チームのみ）を動力源として競技を行う。

「周回レース・予選」、「スラロームコンテスト」、「周回レース（決勝）」を行い、種目ごとに一般の部、学生の部それぞれ順位を決める。また、予選通過できなかったチームによる「周回レース（リベンジ）」を行う。

3. 賞金・賞品

◎周回レース

一般の部・・・優勝5万円、準優勝3万円、3位1万円、4位・5位：賞品

学生の部・・・優勝5万円、準優勝3万円、3位1万円、4位・5位：賞品

◎スラロームコンテスト

一般の部・・・優勝5万円、準優勝3万円、3位1万円、4位・5位：賞品

学生の部・・・優勝5万円、準優勝3万円、3位1万円、4位・5位：賞品

◎特別賞・・・賞品

4. 大会日程

平成29年8月5日（土）～8月6日（日）

◎8月5日（土） 9：00～11：30 受付及び船体検査
 12：00～12：30 競技説明会
 13：00～14：30 周回レース（予選）

◎8月6日（日） 9：00～10：10 スラロームコンテスト
 13：00～13：30 周回レース（リベンジ）
 14：00～15：10 周回レース（決勝）
 16：00～16：30 閉会式・表彰

5. 受付

◎受付場所 パドック本部（パドック内、詳しくは17・18ページ参照）

◎受付日時 8月5日（土）9時00分～11時00分

◎受付要領

- (1) パドック本部の受付にチーム名を申し出る。
- (2) 競技者及び出場種目を確認する。
- (3) 受付時に主催者より以下のものを支給する。
 - ・警笛（詳しくは7ページ追い越し方法参照）
 - ・ゼッケンナンバー2枚（船尾に《たて25cm×横30cm》貼付するための板またはフレームを取り付けておくこと。）
 - ・選手証（競技中は胸部に貼付しておくこと。）
 - ・蓄電池4個（詳しくは14ページ参照）

6. 船体検査（8月5日（土）9：00～11：30）

- (1) 各艇の組立などの作業はすみやかに行うこと。作業が終了した時点でパドック本部に船体検査を申し込むこと。
- (2) パドック内の各チームの所定場所で、検査員が船体の寸法・安全性等の検査を行う。この時、代表者と選手は立ち会って、検査員の質問に返答できるようにすること。
- (3) 船体検査に合格した艇にのみ、レース出場資格が与えられる。
- (4) 船体検査で改良等の指示があった場合は、改良または修理等を行い、再検査を受けること。
- (5) 競技の途中で舵やプロペラ交換・調整等を行う予定がある場合は船体検査時に検査員にその旨を申し出ること。この場合は、交換・調整等の全ての部品について検査を行う。検査を受けてない部品で交換・調整が必要となった場合は、そのつど検査を受けること。
- (6) 8月5日（土）に検印シール等を上部に貼付した蓄電池をパドック本部で支給するが、この検印シールの貼付のない蓄電池を使用した場合は失格とする。
- (7) その他の蓄電池を計測・通信・ビルジ排水に使用する場合は事前に申告すること。ただし、それ以外の目的で蓄電池を使用することはできない。

7. 主催

水郷柳川の水の祭典実行委員会

8. 後援

柳川市、柳川市教育委員会、柳川市議会、九州運輸局、NHK福岡放送局、FBS福岡放送朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、有明新報社、西日本鉄道株式会社

Ⅱ タイムスケジュール

※タイムスケジュールは絶対のものではありません。変更する場合がありますので当日の放送や係員の指示に従ってください。



8月6日(日)



Ⅲ レース走行指示書

1. 適用

本指示書は、「2017 柳川ソーラーボート大会」の競技に適用する。

2. 参加条件

「2017 柳川ソーラーボート大会レギュレーション」の製作条件等を満たし、船体検査に合格したチームが本大会に参加できる。

3. 競技者への連絡方法

競技者への連絡は、大会前は郵送またはメール、大会当日は場内放送およびパドック本部で行う。

4. 走行指示の変更

走行指示は、パドック本部により変更する場合がある。

5. 競技者へ支給・貸与するもの

◎競技者へ支給するものは以下のとおりとする。

- ・防水コネクター（詳しくは14ページ参照）なお、これまでに支給されているものを使用ください。不足する場合は事務局まで連絡ください。
- ・蓄電池4個（詳しくは14ページ参照）
- ・警笛（詳しくは7ページ追い越し方法参照）
- ・ゼッケンナンバー（船尾に〈縦25cm×横30cm〉貼付するための板またはフレームを取り付けておくこと）
- ・選手証（競技中は胸部に貼付しておくこと。）2日分

◎競技者へ貸与するものは以下のとおりとする。

- ・400W発電設備（周回レース・決勝に参加する20チームのみ）
（詳しくは14ページ参照）

6. 競技者が持ってくるもの

競技者は以下のものを持ってくること。

- ・ライフジャケット（JCI公認のものに限る）
- ・ヘルメット（カヌー用が好ましい）
- ・船台（パドックから艇の乗降場所まで距離があるので、必要に応じて各自で用意すること。）

7. 競技規則

競技ごとの詳しい規則は6ページから13ページまでに掲げるとおりとする。

8. 言葉の意味

不参加…参加申し込み時で、競技の参加を希望しなかったもの

リタイア…棄権

失格…悪質な違反

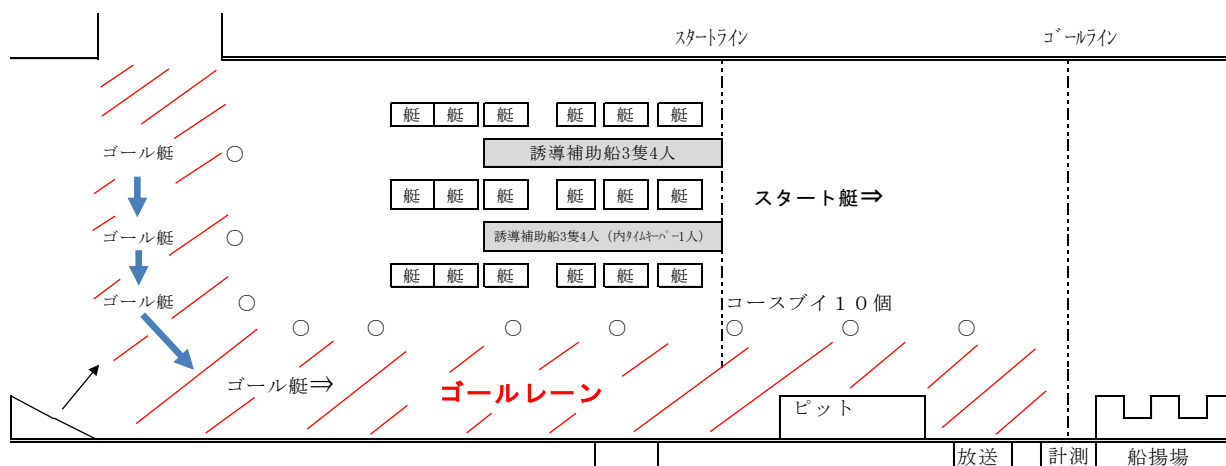
乗船場…艇を降ろし、艇に乗る場所

ピット…レース中の蓄電池交換等を行う場所※周回レース決勝時のみ使用

艇揚場…艇を揚げる場所

9. 競技内容・規則

(1) 周回レース・予選



① 出場資格

◎参加登録を終え、船体検査に合格し、参加を希望した全艇が出場できる。

② レース内容

◎レースは3艇ずつ2分間隔でスタートし、周回コース1周（約3.1km）のタイムを競う。

◎スタートの組み合わせはゼッケンナンバー順とする。

③ コース

◎スタート、ゴールは上図参照。

コースは17ページ参照。

スタートラインから最終コーナーまでは、オープンコースとする。

最終コーナーからゴールラインまでは、ゴールレーンを設ける（ブイ設営）。

ゴールレーンを走行しない艇については、ゴールタイムに10秒を加算する。

④ スタート

◎スタート合図は、アナウンサーが5秒前のコールをした後、「ピッ、ピッ、ピッ、ピー」という音を入れるので、最後の「ピー」がスタートの合図となる。

◎先頭の補助船の船首をスタートラインに合わせているので、船首から出ないこと。

◎フライングについては、『5秒前のコール』前のスタートは失格、『5秒前のコール』後はゴールタイムに10秒を加算する。

◎スタート合図後30秒以内にスタートできない艇はリタイアとする。

◎次のスタート艇は補助船の所に待機しておくこと。

⑤ レース判定

◎レース中に他の艇と故意に接触したり、危険行為を行ったりした場合、また他の艇の進路を妨害したと審判により判断された艇は失格とする。

◎進路の妨害などを受けたと思う艇はレース終了後15分以内にパドック大会本部に異議申立書を提出することができる。（指定の用紙をパドック本部に備えている）

◎スタートから40分をこえてゴールした艇は、リタイアとする。なお、最終組スタート後、40分で号砲を上げ、予選終了とする。

⑥ゴール

◎ゴールの判定は船首がゴールラインに着いた時点で行う。その時ゴール音を鳴らす。

◎ゴールラインは、レースコース両岸の2つのゴールポールを結ぶ線とする。

※ゴール後はすみやかにゴールラインから離れ、艇揚場から艇を揚げること。

⑦決勝進出

◎周回レース・決勝には20艇が出場でき、一般の部からは予選の上位8艇、学生の部からは予選の上位12艇が決勝に残ることができる。(全20艇で参加登録者按分)

■その他のルール

◎航行は以下の方法に従うものとする。

- ・水域全体は一方通行とする。従ってコースでのUターンは禁止する。
- ・座礁した場合のみ、人の手によるパドリングは許可する。
- ・修理は運転しているドライバーのみ許可する。その場合、艇はできる限り岸に寄せることとする。また、艇から降りての修理はリタイアとする。
- ・周回コース上の監視員の指示に従わなかった場合は失格となる。

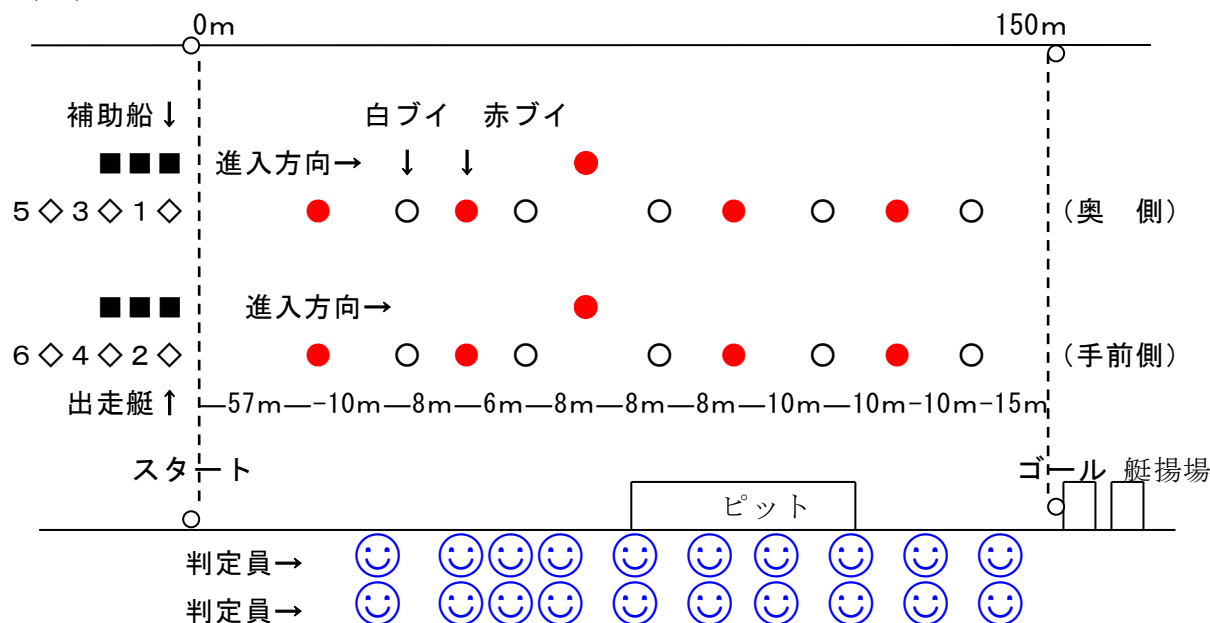
◎順位キープエリア、注意エリアの設置

- ・本大会では掘割を使用してレースを行うため、川幅の狭い場所等があるので、順位キープエリアと注意エリアを設置する。(場所は17ページ参照) 順位キープエリアでの追い越しは禁止、追い越した場合は順位を繰り下げる。(1艇につき1順位)
- ・注意エリアは注意して追い越しを行うこと。特に悪質な場合は失格とする。
- ・順位キープエリアの目印として赤色ののぼりを設置する。また、注意エリアでは黄色の旗を振って注意を促す。

◎追い越し方法

- ・川下りの船は右側を航行しているので、ソーラーボートは警笛を鳴らし、十分安全を確認して川下りの船の左側を追い越すこと。
- ・ソーラーボート同士の場合は警笛を鳴らし、左右どちらからでも追い越すことができる。ただし、カーブでの追い越しは外側から追い越すこと。

(2) スラロームコンテスト



①出場資格

- ・船体検査に合格し、参加を希望した全艇が出場できる。

②レース内容

- ・レースは2艇ずつスタートし、ブイ10個の間をスラロームしてタイムを競う。
- ・スタート組み合わせはゼッケンナンバー順とする。欠場、リタイアがあった場合、順番の繰り上げを行う。

③コース

- ・コースは上図参照。
- ・ブイとブイの間隔は約6mから10mの間で設置し、一つ一つの間隔はランダムとし、10個のブイのうち1個を左右どちらかにずらして置く。

④スタート

- ・スタート合図はアナウンサーが5秒前のコールをした後、「ピッ、ピッ、ピッ、ピー」という音を入れるので、最後の「ピー」がスタートの合図となる。
- ・先頭の補助船の船首をスタートラインとするので補助船の船首から出ないこと。
- ・フライングについては、5秒前のコール前のスタートは失格、コール後はゴールタイムに10秒を加算する。
- ・スタート合図後30秒以内にスタートできない艇はリタイアとする。
- ・次のスタート艇は補助船の所に待機しておくこと。

⑤レース判定

- ・赤色のブイは船体がブイの左側から進入し、白色のブイは船体がブイの右側から進入し、全てのブイをスラロームしなければならない。進行方向を間違ったり、スラロームできなかつたりした場合は後進してスラロームし直さなければならない。
- ・ブイの通過は、回る方向のブイを内側にして回ることによって成立する。

- ・船体の全てがブイのポールを内側にして通過しなければならない。また、ブイが船体にふれてもよい。
- ・ブイを不通過でゴールした場合、失格とする。
- ・レース中に他の艇と故意に接触したり、危険行為を行ったりした場合、また他の艇の進路を妨害したと審判により判断された艇は失格とする。
- ・進路妨害を受けたと思う艇はレース終了後15分以内に大会本部に異議申立書を提出することができる。（指定の用紙をパドック本部に備えている）
- ・スタート後4分以内にゴールしない艇はリタイアとする

⑥ゴール

- ・ゴールの判定は船首がゴールラインに着いた時点で行う。その時ゴール音を鳴らす。
 - ・ゴールラインは、レースコース兩岸の2つのゴールポールを結ぶ線とする。
- ※ゴール後はすみやかにゴールラインから離れ、艇揚場から艇を揚げること。

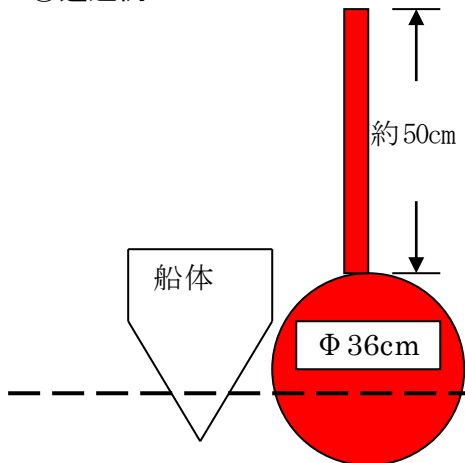
注1：「船体」とは船体検査時に計測した部分をいう。

競技ごとに付加物（フロート等）を取り付けたり取り外したりしたときは、競技ごとに船体の幅が変わるということになる。（付加物の取り付け、取り外しが事前に決定している場合は船体検査時に申告すること。競技直前に決定した場合は、再度船体検査を行うためパドック本部に申告すること。）

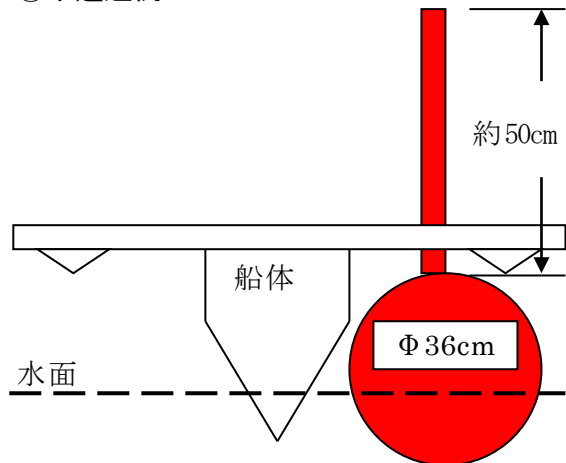
注2：学生の部、一般の部それぞれ1位～3位で同タイムが出た場合は、決勝レースを行う。

注3：ブイの通過例

①通過例



②不通過例



◎ブイ不通過の場合◎

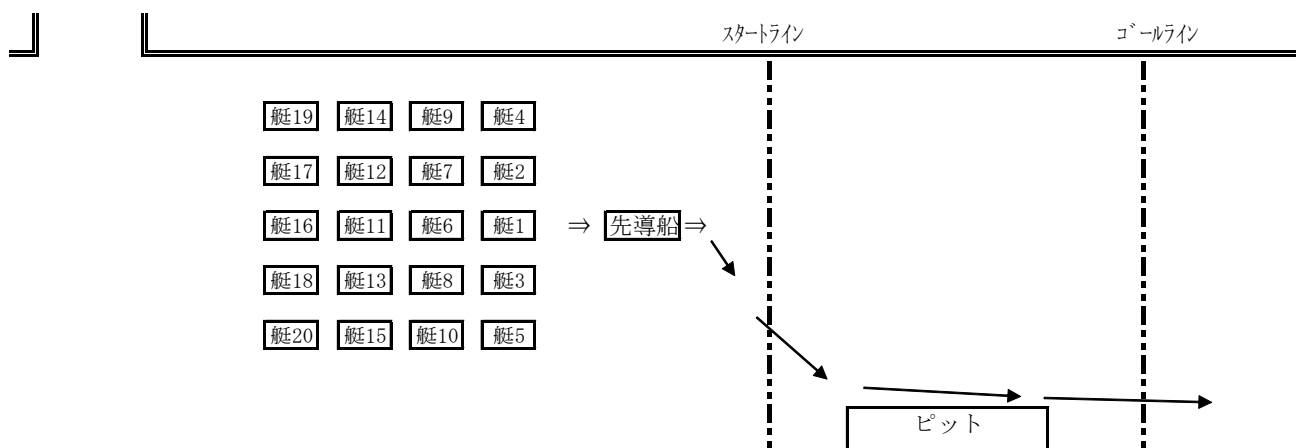
☆ブイを不通過の場合は監視員が旗を揚げる。

☆やり直したら旗を降ろす。やり直しをしなかった場合は、旗は揚げたままにする。

☆フラッグの色 □奥側・・・黄色

□手前側・・・青色

(3) 周回レース・リベンジ



① 出場資格

- ◎ 周回レース予選で予選通過できなかったチームが出場できる。
- ◎ 参加したいチームは、決勝出場チーム発表後から、8月5日（土）の17時30分までにパドック本部へ連絡する。

② レース内容

- ◎ 一斉スタートにより1周して順位を競う。
- ◎ スタートポジションは、一般の部と学生の部あわせた周回レース予選のタイム順とする。予選リタイア・失格等のチームは抽選で配列を決定する。

③ コース

- ◎ スタート、ゴールは上図参照。
- ◎ コースは17ページ参照。
- ◎ スタートからゴールまでオープンコースとする。

④ スタート

- ◎ スタートライン後方から先導船に誘導されながら隊列を整え、スタートラインに近付いたところでスタートフラッグが振られ、ドラが鳴らされたらスタートとなる。（上図参照）
- ◎ スタート前は先導船の船尾を越えない様にしなければならない。越えた場合はゴールタイムに30秒を加算する。特に悪質な場合は失格とする。
- ※ 若干のバラツキはいいが前の列の艇を追い越してはならない。追い越した場合は失格とする。ただしモーター等のトラブルで故障した艇は追い越してもよいこととする。

⑤ レース判定

- ◎ レース中に他の艇と故意に接触したり、危険行為を行ったりした場合、及び他の艇の**進路を妨害**したと審判により判断された艇は失格とする。
- ◎ 進路妨害などを受けたと思う艇はレース終了後15分以内に大会本部に指定の異議申立書を提出することができる。
- ◎ スタート後30分経過した時点で号砲を上げるので、それまでにゴールできなかった艇はリタイアとする。

⑥ゴール

◎ゴールの判定は船首がゴールラインに着いた時点で行う。その時ゴール音を鳴らす。

◎ゴールラインは、レースコース両岸の2つのゴールポールを結ぶ線とする。

※ゴール後はすみやかにゴールラインから離れ、艇揚場から艇を揚げること。

■その他のルール

◎航行は以下の方法に従うものとする。

- ・水域全体は一方通行とする。従ってコースでのUターンは禁止する。
- ・座礁した場合のみ人の手によるパドリングは許可する。
- ・指定したピット以外（水面上）での修理は運転しているドライバーのみ許可する。その場合、艇はできる限り岸に寄せることとする。また、艇から降りての修理はリタイアとする。
- ・周回コース上の監視員の指示に従わなかった場合は失格となる。

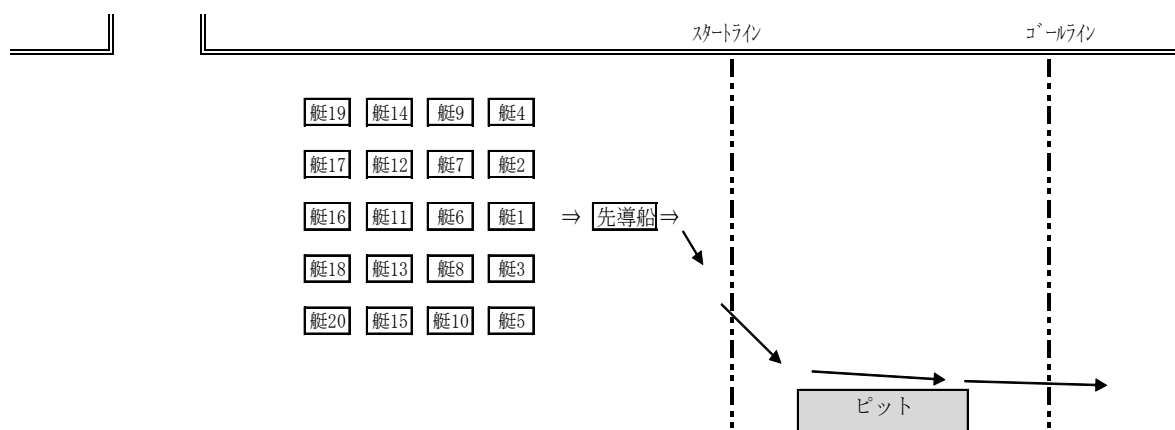
◎順位キープエリア、注意エリアの設置

- ・本大会では掘割を使用してレースを行うため、川幅の狭い場所等があるので、順位キープエリアと注意エリアを設置する。（場所は17ページ参照）順位キープエリアでの追い越しは禁止、追い越した場合は順位を繰り下げる。（1艇につき1位）
- ・注意エリアは注意して追い越しを行うこと。特に悪質な場合は失格とする。
- ・順位キープエリアの目印として赤色ののぼりを設置する。また、注意エリアでは黄色の旗を振って注意を促す。

◎追い越し方法

- ・川下りの船は右側を航行しているので、ソーラーボートは警笛を鳴らし、十分安全を確認して川下りの船の左側を追い越すこと。
- ・ソーラーボート同士の場合は警笛を鳴らし、左右どちらからでも追い越すことができる。ただし、カーブでの追い越しは外側から追い越すこと。

(4) 周回レース・決勝



①出場資格

- ◎一般の部から周回レース予選の上位 8 艇、学生の部から周回レース予選の上位 1 2 艇が出場できる。(全 2 0 艇参加登録者按分)

②レース内容

- ◎一斉スタートにより 3 周して順位を競う。
- ◎スタートポジションは、一般の部と学生の部あわせた周回レース予選のタイム順とする。(ポジション配列図は太陽光発電設備貸し出しの説明会のとき配布する。)リタイア等があっても配列は変わらないこととする。
ただし、最終的な順位はクラス別とする。

③コース

- ◎スタート、ゴールは上図参照。
- ◎コースは 1 7 ページ参照。
- ◎スタートからゴールまでオープンコースとする。

④スタート

- ◎スタートラインは 2 つのスタートポールを結ぶ線とする。
- ◎スタートライン後方から先導船に誘導されながら隊列を整え、スタートラインに近付いたところでスタートフラッグが振られ、ドラが鳴らされたらスタートとなる。(上図参照)
- ◎スタート前は先導船の船尾を越えない様にしなければならない。越えた場合はゴールタイムに 3 0 秒を加算する。特に悪質な場合は失格とする。
※若干のバラツキはいいが前の列の艇を追い越してはならない。追い越した場合は失格とする。ただしモーター等のトラブルで故障した艇は追い越してもよいこととする。

⑤レース判定

- ◎レース中に他の艇と故意に接触したり、危険行為を行ったりした場合、及び他の艇の**進路を妨害**したと審判により判断された艇は失格とする。
- ◎進路妨害などを受けたと思う艇はレース終了後 1 5 分以内に大会本部に指定の異議申立書を提出することができる。
- ◎スタート後 7 0 分経過した時点で号砲を上げるので、それまでにゴールできなかった艇はリタイアとする。

⑥ゴール

- ◎ゴールの判定は船首がゴールラインに着いた時点で行う。その時ゴール音を鳴らす。
- ◎ゴールラインは、レースコース両岸の 2 つのゴールポールを結ぶ線とする。
※ゴール後はすみやかにゴールラインから離れ、艇揚場から艇を揚げること。

⑦ピット

- ◎ピットはメイン会場の指定された場所のみ

ピット

 (前ページ参照) とする。

◎使用回数、場所は参加チームの自由とするが、コース上は一方通行（Uターン禁止）なのでピットから出て、Uターンしてもう一度ピットに入ることは禁止する。

（ただし、ピット前の水上ではピット待ち等の停止、Uターンは可とする。）

※艇揚場では、ピット作業はできないので注意すること。

◎ピットエリア内での作業（引き揚げての作業も認める。）は、以下のことを許可する。なお、ピットエリア内は登録選手のみ入ることができる。登録選手は大会本部が支給する選手証を胸部に貼付しておかなければならない。

(1) バッテリー交換（支給されたバッテリー4個のうち最大2個を搭載）

(2) ドライバー交代（ドライバー登録選手のみ）

(3) 修理

⑧ バッテリー交換

◎乗船場、ピット、艇揚場の3ヶ所で蓄電池のチェックを行い、パドック本部で支給した蓄電池以外を使用した場合は失格とする。

■ その他のルール

◎航行は以下の方法に従うものとする。

・水域全体は一方通行とする。従ってコースでのUターンは禁止する。

・座礁した場合のみ人の手によるパドリングは許可する。

・指定したピット以外（水面上）での修理は運転しているドライバーのみ許可する。その場合、艇はできる限り岸に寄せることとする。また、艇から降りての修理はリタイアとする。

・周回コース上の監視員の指示に従わなかった場合は失格となる。

◎順位キープエリア、注意エリアの設置

・本大会では掘割を使用してレースを行うため、川幅の狭い場所等があるので、順位キープエリアと注意エリアを設置する。（場所は17ページ参照）順位キープエリアでの追い越しは禁止、追い越した場合は順位を繰り下げる。（1艇につき1位）

・注意エリアは注意して追い越しを行うこと。特に悪質な場合は失格とする。

・順位キープエリアの目印として赤色ののぼりを設置する。また、注意エリアでは黄色の旗を振って注意を促す。

◎追い越し方法

・川下りの船は右側を航行しているので、ソーラーボートは警笛を鳴らし、十分安全を確認して川下りの船の左側を追い越すこと。

・ソーラーボート同士の場合は警笛を鳴らし、左右どちらからでも追い越すことができる。ただし、カーブでの追い越しは外側から追い越すこと。

IV 注意事項

1. 蓄電池

◎蓄電池は大会本部が大会受付時（8月5日パドック本部にて）に支給する蓄電池4個を使用すること。

※ユアサ小型シール鉛電池NPH16-12T 12V・16Ah・6.2Kg

◎支給する蓄電池は出荷された状態なので若干、充電状態の差異はあるが、異議申し立てはできない。

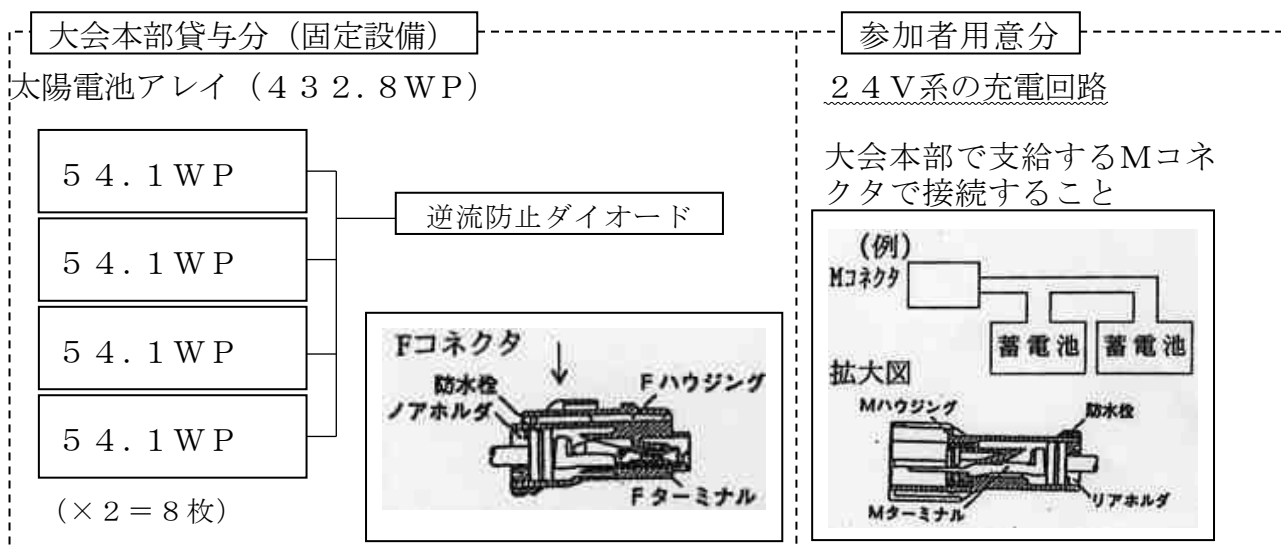
◎艇には、支給した4個のうち最大2個を搭載できる。4個の運用方法は自由とする。

◎蓄電池は、大会終了後は各チームで持ち帰ってよい。（参加記念品とする）

◎蓄電池の充電については、船体にある太陽電池（70W以上100W以下）によってのみ充電できる。ただし、周回レース・決勝に出場するチームには太陽光発電設備を貸し出すので、これによっても充電することができる。

2. 太陽光発電設備の使用法

ソーラーパネル1枚あたりの最大出力ワット数は、54.1WP。パネルを使うチーム数は20チームで、1チームあたり8枚のパネルを使うので、ソーラーパネルの総数は160枚。20チーム分の出力電線（直流）が必要で、それぞれがバッテリー充電できるようコネクタをつけている。



※一部メーカーの異なるソーラーパネルを使用しているが、出力特性は同等のものを設置。

出力特性

最大出力	432.8W (代表値)
最大出力動作電圧	33.8V
最大出力動作電流	12.8A
開放電圧	43.0V
短絡電流	13.4A

※条件

日射強度 AM1.5 1Kw/m²
素子温度 25℃

◎周回レース決勝に進出した全チームに貸与する。場所については抽選とする。

※太陽光発電設備には過充電防止機能が付いていないので、各チームは過充電しないよう注意すること。（対策例：テスター等を持ってくる。）

3. コネクターの接続方法

- ◎蓄電池側と船体のモーター、太陽電池側との結線は大会本部が支給するコネクタ（矢崎総業、防水コネクタ 58コネクタ Yタイプ）を使用すること。
- ◎支給する防水コネクタは、4セット（Fコネクタ4、Mコネクタ4及び付属品）とする。
- ◎電極は①をプラス（赤線）、②をマイナス（黒線）に接続すること。

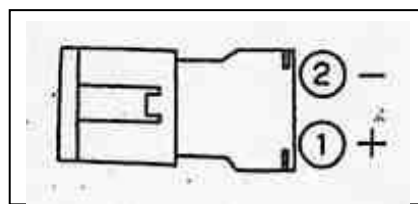
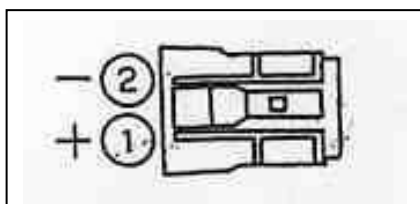
（下図例参照）

（モーター・太陽電池側）

Fコネクタ ↓

（蓄電池側）

↓ Mコネクタ

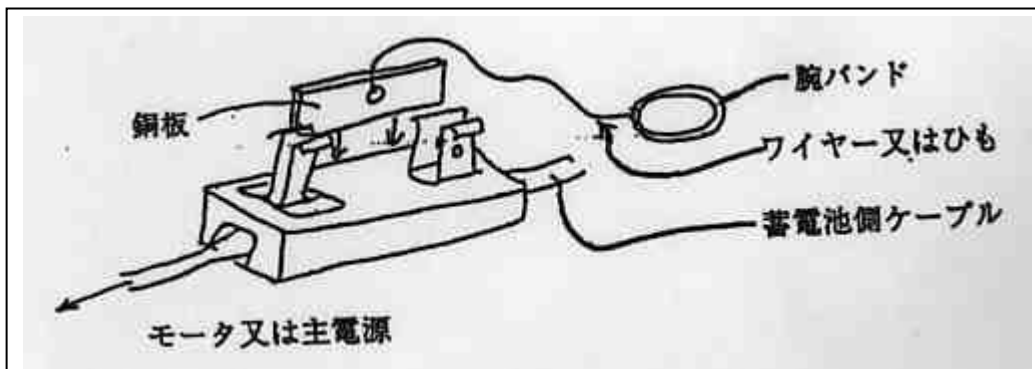


4. キルスイッチ

- ◎キルスイッチはドライバーが艇を離れるとき自動的に艇の電源が切れるようにしておくこと。これは転覆時等にドライバーの身を守るために必ず設置しておかなければならない。（下図例参照）



構造例（2）ヒューズホルダー又はナイフスイッチのスライド端子部分を改造して使用する。



5. リタイアの届け出

◎レース前にリタイアする場合、チーム代表者は、パドック本部にただちに申し出ること。ただし、出場予定で、水上待機中に異常があり、リタイアする場合は、誘導係員又はスタート係員に申し出てもよい。

◎レース中にリタイアする場合は、「リタイアの方法」を参照のこと。

6. 乗船場からスタートラインまでの移動

◎移動は誘導係員の指示に従うこと。

7. ゴール後の移動

◎ゴール後はすみやかに艇揚場まで移動し、迅速に陸上へ艇を引き揚げること。艇揚場は狭いので陸揚げした後、係員の蓄電池チェックを受けて指示に従いすみやかにパドックへ移動すること。

V その他

1. 艇の乗降方法

◎出場艇の移動は、船台等を用いて行う。混雑が予想されるので移動時間に十分余裕を持って移動すること。

◎パドック本部から移動の連絡はするが、移動に要する時間はチームによって異なるので、前もって所要時間を計っておくこと。

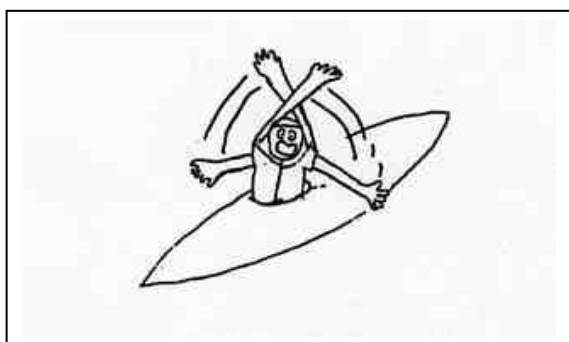
◎乗船場での進水は出走順番に水上に艇を降ろすので係員の指示に従うこと。

◎原則として艇の進水は「乗船場」、引き上げは「艇揚場」で行う。

(ピットは原則として艇を揚げる場所としては使用しない。)

2. リタイアの方法

◎レース途中でレースを断念し、救助を求める艇は両手を交差するように大きく振って監視員に意思表示すること。この合図により走行不能艇とし、リタイアとする。(下図参照)



3. コース下見など

◎コース見学会や試走のプログラムなどは、設定していません。各チームの自主的な判断で責任を持って行うこと。

4. 関係案内図

◎会場付近図



※ 選手用駐車場は上記のとおりです。満車の場合は市民グラウンド駐車場に駐車してください。(来客駐車場には駐車しないでください)

パドックへの車での搬入は、かんぼの宿さんの敷地内を通らせていただきます。8月5日は7時から12時まで、6日は7時から17時まで通れます。なお、係員の誘導・指示に従ってください。

駐車許可証は準備していませんのでご協力をお願いします。

◎周回コース図



